

平成18年度（後期）共同研究実施状況

協力研究	「相互作用点モデル／モード結合理論による溶液緩和の研究」を始め39件
UVSOR施設利用	「X線照射誘起発光及びXAFSを利用したセラミックス欠陥種の状態解析」を始め62件
施設利用	「可塑的共有結合で塩基対を形成するDNAの構造評価」を始め27件

* 共同研究実施一覧（各課題名等）は「分子研レポート」に掲載することになりました。

平成18年度（後期）分子研研究会

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
2006年11月7日（火） ～8日（水）	ホモキラリティーの起源に関する星間科学・分子科学	川口健太郎 （岡山大学大学院自然科学研究科）	29名
2006年11月17日（金） ～18日（土）	真空紫外域発光の探索	伊藤 稔 （信州大学工学部）	41名
2006年11月29日（水） ～30日（木）	高分解能分子分光で見る大振幅振動	馬場 正昭 （京都大学大学院理学研究科）	32名
2006年12月5日（火） ～6日（水）	和周波分光で拓く分子科学の新展開	大内 幸雄 （名古屋大学大学院理学研究科）	64名
2006年12月21日（木） ～22日（金）	生体機能理解の基準としての複雑分子系の階層構造的分子間相互作用	田原 太平 （理化学研究所）	37名
2007年3月11日（日） ～12日（月）	物性分子科学の新展開	加藤 礼三 （理化学研究所）	60名
2007年3月14日（水） ～15日（木）	無機——有機複合体のナノ構造制御による機能・物性発現	大場 正昭 （京都大学大学院工学研究科）	46名
2007年3月19日（月） ～20日（火）	ヘムの代謝に関わる酵素の分子科学	藤井 浩 （岡崎統合バイオサイエンスセンター）	37名
2007年3月19日（月） ～20日（火）	ナノクラスター・ナノ粒子科学の深化——物性、反応性、構造とダイナミクス	真船 文隆 （東京大学大学院総合文化研究科）	30名

共同利用研究とは？



分子科学研究所は、極端紫外光研究施設、及び、計算科学研究センターなどの大型施設を「施設利用」という形で当該分野コミュニティの研究者の利用に供しています。また、分子制御レーザー開発研究センター、分子スケールナノサイエンスセンターなどの研究センターにおいて、先端的な装置を共同利用に供すると共に、測定法や物質合成手法の開発、共同研究の実施等を当該分野の研究者との連携の下で行う「課題研究」を支援しています。さらに、これらセンターならびに各研究系における研究資源を広く解放し、研究者の個別なニーズに応じて共同利用

研究を行う「協力研究」があります。これらのハードウェアを中心とした共同利用と共に、当該分野の特定の課題に関する討論を深め、更なる新しい発展を探るための有効な手段として、所外の研究者の提案を基にしたワークショップである「分子研研究会」を毎年複数回開催しています。

申込受付は年2回、分子研ホームページより公募書類をダウンロード出来ます。また、協力研究、施設利用は随時申込を受付中です。詳しくは、<http://www.ims.ac.jp/joint/joint.html>をご覧ください。